

# 1 校内の指導体制

不登校への対応については、個々の子どもの成長・発達を支援する観点から、教職員の一致協力した指導体制の確立が何よりも必要です。

管理職の強いリーダーシップのもと、学級担任・教育相談担当・生徒指導主事・教務主任・学年主任・養護教諭・スクールカウンセラー・「心の教室相談員」等がそれぞれの役割について相互に理解した上で、日ごろから連絡を密にして対応にあたるのが大切です。

## (1) 不登校に対する基本的な考え方と学校の取り組み

不登校に対する基本的な考え方と対応する上での基本的な視点

### 保護者の役割と家庭への支援

保護者がその役割を果たすことができるよう、時機を逸することなく家庭への働きかけや保護者が必要としている支援を行うなど、学校と家庭・関係機関等との連携を図ることが大切です。

### 連携ネットワークによる支援

子どもの状態や必要としている支援を適切に見極めながら、学校・家庭・関係機関等で積極的な連携・協力を行うことが重要です。

## 不登校に対する基本的な考え方

### 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割

義務教育段階の学校は、社会性の育成や生涯を通して、学び続けるための学力を育てる学習支援の場として、重要な意義・役割があります。学校教育の充実のための取り組みを進める必要があります。

### 将来の社会的自立に向けた支援の視点

不登校の解決の目標は、子どもたちの将来的な「社会的自立」です。不登校は「心の問題」のみならず「進路の問題」である、との認識に立った指導・援助が重要です。

### 働きかけることやかかわりをもつことの重要性

子どもの主体的な社会的自立や学校復帰に向けて、不登校の状態をよく見極め、適切な働きかけをしていくことが重要です。

### 【対応する上での基本的な視点】

- どの子どもにも起こり得るものであること。
- 学校生活上の問題に起因する場合があること。
- 学校と家庭・関係機関との緊密な連携によって、かなりの部分の改善や解決が図られること。
- 自立を促し、学校生活への適応を図るため、多様な方法を検討する必要があること。
- 好ましい小さな変化を積極的に評価すること。